

# ライシーム運動における教師教育（2） —「教科書」の整備と普及に焦点をあてて—

野々垣明子

**要旨：**本稿では、19世紀前半のアメリカにおける地域住民の学習運動、すなわちライシーム運動における教師教育の実際について、「教科書」(School Book)の整備と普及の観点から明らかにすることである。1830年代のアメリカでは、公教育制度の整備と国民共通のコモン・スクール (common school) 設置が進められ、コモン・スクールで使用する教科書も数多く出版されていた。学校現場では多種多様な教科書が使用されていたため、教育内容や方法の統一性が欠けていた。こうした背景から、ライシーム運動の創始者ホルブルック (Holbrook) は「教科書」の整備と普及を目指した。ここでいう「教科書」とは、①地域住民や教師の「自己教育」(self-education)、「相互教授」(mutual instruction) のための教材と、②学校の授業において使用する教材に分類できる。とりわけ教師の学習に使用する「教科書」には、当時における最新の教育書が選定された。地域のライシーム (lyceum) では、教師や学校運営を担う学務委員 (School Committee) が教育書を読む集会を開き、学校教育改善への意識を高める試みがなされていた。一方、学校において教師と子どもが使用する教科書には、当時の新しい教育法・学習法を念頭に置いた教科書が多く推薦された。このようにライシーム運動では「教科書」の整備と普及を通して、教師の資質能力の向上と学校教育の改善をになっていた。

**キーワード：**教師教育／ライシーム運動／「教科書」／コンコード・ライシーム／教育書

## 1. 問題の所在

本稿の目的は、19世紀前半アメリカの成人教育運動、すなわちライシーム運動 (Lyceum Movement) における教師教育について、同運動によってなされた「教科書」(school books<sup>(1)</sup>)の整備と普及に焦点を当ててその実態を明らかにすることである。

ライシーム運動は、地域住民の自発的な学習機関 (lyceum) の設置を目指し、1830年代から60年代を中心に全米規模で展開された。一般市民が教育を受け、知識を獲得する機会が乏しい時代に、ライシーム運動は地域住民による主体的な学び合い活動を実施することにより、教育機会の普及を目指した<sup>(2)</sup>。ライシーム運動が発展した時期は、アメリカにおける近代公教育制度の成立期に該当し、先行研究では、ライシーム運動が公立学校の推進、教育委員会制度の支持、教師教育の支援に関わったことが注目され、19世紀アメ

リカにおける成人教育の発展、さらには国家 (州政府) による公教育制度成立への同運動の貢献が指摘されている<sup>(3)</sup>。

筆者はこれまで、公教育とライシーム運動との関連について再検討することを研究課題とし、地域住民主導の学校教育の普及や改善に対して、同運動が果たした役割を明らかにしてきた<sup>(4)</sup>。近年では、とりわけ、教師教育の思想と実践の解明を目指している。ライシーム運動の創始者であるジョサイア・ホルブルック (Josiah Holbrook, 1788-1854) の論考等の分析を通して、教師は「専門職」として位置づけられ、現職教員同士の学び合いや自主研修への支援策が講じられていたこと、その支援の主たる担い手が地域住民であったことを明らかにした<sup>(5)</sup>。しかし、教師教育の内容については十分な検討に至っていない。

そこで本稿では、ライシーム運動における教師支援策の一つである、「教科書」の整備と普及に焦点を当てて、ライシーム運動による教師教

育の実際を明らかにすることを指す。

植民地時代のマサチューセッツ州を中心としたニューイングランドの初等教育では、『ニューイングランド・プリマー』(*The New England Primer*, 1690)と呼ばれるプロテスタント宗派のために編集された教科書が使用され、それは宗教的性格を色濃くもっていた。子どもたちは教材を暗記することが求められた。やがて19世紀前半になると公教育制度の整備にともない、国民共通の公立学校であるコモン・スクール (common school) の教科書が数多く刊行されるようになった<sup>(6)</sup>。この時期の教科書を分析の対象とした先行研究として北野や田中の研究が挙げられる。北野は19世紀初期の「算術」と「地理」の教科書を分析の対象とし、同時期における「教授理論の起源と変容」をとらえ、「教授理論の史的な展開」を解明している<sup>(7)</sup>。田中は、1830年代から40年代におけるコモン・スクール教科書の拡大を一つの例として、当時のアメリカにおいて同一年齢の生徒からなる「均質な生徒集団としてのクラス」、「均質な学校知としての教科書」にもとづく、「競争志向」の教育が拡大したことを解明している<sup>(8)</sup>。このように19世紀前半のアメリカでは、学校における教科書、および教授の内容・方法において大きな変化が見られた。学校で使用される本や教科書の変化は、それをを用いる教師の教授のあり方にも変化をもたらす。こうした背景から、ライシーム運動による「教科書」の整備と普及への取組に着目することにより、同運動による教師支援、教師教育の特徴を明らかにすることができるのではないかと筆者は考えた。

筆者はすでに別稿で、ライシーム運動において教授に関する情報が提供されたことや創始者ホルブルックが学校で使用する本の問題を視野に入れライシームのシステムの一部を構築したことについてふれたが<sup>(9)</sup>、実際の取組については検討していない。本稿では、ホルブルックが創刊した機関誌『週刊ファミリー・ライシーム』(*The Family Lyceum, designed for instruction and entertainment, and adapted to families, schools and lyceums*, no.1-52. 1832-33)に掲載されている「教科書」リスト、マサチューセッツ州コンコードの

ライシームにおける「教科書」の整備事例を分析の対象とし、同運動による「教科書」の整備と普及への取組の特徴を考察する。それを通して、教師に対する同運動の教師教育・支援策の一端を明らかにする。

## 2. ライシーム運動における本の整備

学校での使用を想定する「教科書」を検討する前に、まずはライシーム運動において「本」(book)全般の整備がどのように行われていたのかをみていこう。

ライシームは地域住民によって自発的に設置された学習機関である。したがって、学校教育とは異なり、自学自習や住民相互の学び合い(「相互教授」)が活動の中心となる。ライシームではそうした活動は「演習」(exercise)と呼ばれていた<sup>(10)</sup>。こうしたライシームにおける本の位置づけについて、1831年に発行された『アメリカン・ライシーム会報』(*American Lyceum, with the proceedings of the convention*, 1831)では、次のように記されている。

「もし、ライシームが参加する諸個人一人ひとりに適しているならば、その演習は参加者の願いや教養、探究にそったものになる。もし、ライシームが自己教育のシステム (self-education system) であるならば、その利益を十分に分かち合うことを期待する者は演習に参加しなければならない。

ライシームが組織され、学習のための道具 (tools)、すなわち器具、博物学のコレクション、定期刊行物、本 (Books) が整備された後に、ライシームの会員はそこでの演習の内容やコースが、自分たちの願いや教養、探究に最もよく適しているということに納得する。」<sup>(11)</sup>

「演習」を自学自習や学び合いの形態で行うならば、参加者が学びにおいて使用する各種教材、資料、器具などが豊富に整備されていなければならない。本は学習の「道具」の一つに位置づけられている。ホルブルックは、ライシームの運営

組織を考案する際、本を含む学習環境の整備に携わる「学芸員」(curator)の役を設けており<sup>(12)</sup>、実際の各地のライシームでも「学芸員」が中心となって整備を進めていた。このように、ライシーム運動において本は「演習」において使用する「自己教育」「相互教授」の教材として位置づけられていた。

一方で、ホルブルックは学校において用いられる本の問題にも注目していた。すでに述べたように1830年代には数多くの教科書が刊行された。バツラによれば1804年に出版された教科書の総計が93であったのに対し、1832年では407であったという。コモン・スクールの教科書は、「綴り字」、「読み方」、「算術」、「文法」、「地理」、「歴史」の6教科であった。この時期に最もよく使用されたものとして、マクガフィの「読み方」の教科書、ウェブスターの「綴り字」の教科書、グットリッジ（ピーター・パーレー）の「歴史」の教科書が挙げられる<sup>(13)</sup>。

コモン・スクール教科書が次々と刊行される1830年代の直前、ホルブルックは1826年に、パンフレットにおいて、「学校において本が頻繁に変更になり、あまりに多様な本が用いられていること」を問題視し改善を訴えている<sup>(14)</sup>。

国民共通のコモン・スクールが普及する以前の1820年代までのアメリカでは、学区学校(district school)と呼ばれる地域の住民によって運営される学校が初等教育を担っていた。この学区学校は小規模であり、年齢や学力に幅のある子どもたちが一つの教室で学んでいた。そこでは個々の子どもたちが自宅から持参する本を暗記し、暗唱するスタイルの授業が展開されていた。多様な本が使用されていたため、共通の知識を同時に教えることは難しかった<sup>(15)</sup>。

ホルブルックが学校で使用する本の問題に言及したのは1826年であり、コモン・スクール設置運動が推進され、コモンスクール用教科書が数々出版されはじめた時期の直前にあたる。多くの学区学校では従来と同様に多様な本が持ち込まれていたと推測される。ホルブルックは各学校で使用す

る本を統一するために、「州ライシーム」という各地域の代表者からなる組織を結成し、学校で使用する本の統一性をはかるシステムを構築することを目指している<sup>(16)</sup>。

以上のように、ライシーム運動において整備や普及が目指された本とは、①地域住民の「自己教育」や「相互教授」で使われる教材、②学校、とりわけコモン・スクールの授業において使用する教材の2種類であった。

### 3. 『週刊ファミリー・ライシーム』における「教科書」リスト

それでは、ライシーム運動ではどのような本が「教科書」として選ばれていたのだろうか。ホルブルックが1832年に創刊した『週刊ファミリー・ライシーム』の臨時増刊号では「定評のある「教科書」のリスト」(“List of Approved School Books”)というタイトルで、60冊のリストが掲載されている<sup>(17)</sup>。以下の表1は、リストに掲載された全60冊の①タイトル、②著者、③対象、④科目・分野をまとめたものである。

#### (1) 「教科書」の特性

全60冊中27冊が、コモン・スクールの科目である「綴り字」「読み方」「文法」「算術」「地理」「歴史」に該当している。その内訳は「綴り字」3冊、「読み方」4冊、「算術」4冊、「地理」6冊、「歴史」9冊、「文法」1冊である。また、中等教育以上の学校の科目である「ラテン語」などの古典語、「フランス語」などの外国語、「幾何学」、「天文学」、「政治学」などの本も含まれている。教師が読むことを想定した『学校経営講義』などの教育書も3冊挙げられている。さらに、総数は少ないものの「動物」、「植物学」、「音楽」や「芸術」、「演説」、「ジェスチャー」、「簿記」、「年代学」など、幅広い分野の本が紹介されている。このように、コモン・スクールを中心として、上級学校、さらにはライシームや家庭などでの成人の自発的な学習において使用する本が紹介されている。

表1. 『週刊ファミリー・ライシーアム』における「教科書」リスト

	タイトル	著者	対象	科目・分野など
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どものための綴り字と読み方の本1 (67の木版画)</li> <li>●子どものための綴り字と読み方の本2 (書き方の要素と関連づけて, 55の木版画)</li> <li>●子どものための綴り字と読み方と書き方の本3 (教え方と図り方の学習と関連づけて, 地図, 木版画, 算数と地理の入門)</li> <li>●はじめての地理学 (綴り字, 読み方, 書き方の学習と関連づけて.)</li> </ul> A Series of Introductory School Books The Child's First Book of Spelling and Reading; with sixtyseven engravings The Child's Second Book of Spelling and Reading, connected with the Elements of Writing; with fiftyfive engraving The Child's Third Book of Spelling, Reading and Writing, connected with <i>Numeration</i> and <i>Mensuration</i> ; with Maps and Engravings. Being an easy introduction to Arithmetic and Geography. First Book of Geography, connected with Spelling, Reading and Writing.	バーナム (H.L. Barnum)	学校 (校種の記載なし)	綴り字・読み方・算術・地理
2	綴り字の本 The National Spelling-Book	B.D.エマソン (B.D. Emerson ボストンのアダムスグラ マースクール校長)	学校 (校種の記載なし) ※モニトリアル・システムに対応	綴り字
3	ウースターの読み方・綴り字の本2 Worcester's Second Book for Reading and Spelling	サミュエル・ウースター (Samuel Worcester)	子ども	読み方・綴り字
4	読み方・綴り字の本3 ミスを防ぐためのわかりやすいルールと教え方 A Third Book for Reading and Spelling; with simple rules and instructions for avoiding common errors.	サミュエル・ウースター (Samuel Worcester)	学校 (校種の記載なし)	読み方・綴り字
5	読本シリーズ Series of Reading Books The Young Reader to go with the Spelling- Books	ジョン・ピアポント (Rev. John Pierpont)	コモンスクール 中等教育	読み方・綴り字
6	やさしい読本 the Easy Reader	ジョン・フロスト (John Frost)	学校や家庭 ※綴り字の学習以降	読み方
7	スミスの算術 Smith's Arithmetic	ロズウェル・スミス (Roswell Smith)	コモン・スクール ※ペスタロッチ法に適合	算術
8	スミスの算術入門 Smith Introductory Arithmetic	ロズウェル・スミス (Roswell Smith)	コモン・スクール	算術
9	ウォルシュの算術 Walsh's Arithmetic	マイケル・ウォルシュ (Michael Walsh)	コモン・スクール	算術
10	英文法の初歩 Elements of English Grammar	ジョン・フロスト (John Frost)	コモン・スクール ※低学年むけ	英文法
11	子どものための地理 Geography for Children	J.L.ブレイク (Rev. J. L. Blake)	コモン・スクール ※低学年むけ	地理
12	演説教本 The Academical Speaker	B.D.エマソン (B.D. Emerson)	家庭・学校 ※青年むけ	道徳など
13	政治学講義 The Political Class Book	ウィリアム・サリバン (William Sullivan)	学校 (校種の記載なし) ※上級学年むけ	政治学
14	ボーズの天文学 Vose's Astronomy	ジョン・ボーズ (John Vose)	コモン・スクール, セミ ナリー	天文学
15	若き天文学者 The Young Astronomer	サミュエル・ウースター (Samuel Worcester)	小学校	天文学

ライシーム運動における教師教育（２）

	タイトル	著者	対象	科目・分野など
16	幾何学の初歩 Elements of Geometry	T.ウォーカー (T. Walker 数学教師)	学校（校種は不明）	幾何学
17	自然哲学の基礎 Elements of Natural Philosophy	F.J.グランド (F.J.Grund)	学校（校種は不明）	自然哲学
18	グッドリッチのアメリカの歴史 Goodrich's History of the U.S	グッドリッチ (Goodrich)	記載なし	歴史
19	エマソンの問答 ※グットリッジのアメリカの歴史に対応 Emerson's Question	ジョゼフ・エマソン (Rev. Joseph Emerson)	記載なし	歴史
20	年代学概論 Outlines of Chronology	デイヴィッド・ブレイク (Rev. David Blake)	記載なし	年代学
21	ウェルプリーの歴史概論 Whelpley's Compend of History	ウェルプリー (Whelpley)	記載なし ※女子セミナーでの使用例	歴史
22	パーレーの歴史1 Parley's First Book of History	ピーター・パーレー (Peter Parley ※Goodrichのペンネーム)	記載なし	歴史
23	パーレーの歴史2 the Second Book of History	ピーター・パーレー (Peter Parley)	記載なし	歴史
24	ピーター・パーレーの古代・ローマの話 Peter Parley's Tales about Ancient Rome	ピーター・パーレー (Peter Parley)	記載なし	歴史
25	ピーター・パーレーの古代・近代ギリシャの話 Peter Parley's Tales about Ancient and Modern Greece	ピーター・パーレー (Peter Parley)	記載なし	歴史
26	青年のための神話の本 Books on Mythology for Youth	記載なし	青年 学校（校種の記載なし）	神話
27	学校経営学講義 Lectures on School Keeping	サミュエル・ホール (Samuel R. Hall)	教師	教育書
28	女性教師のための講義 Lectures to Female Teachers	サミュエル・ホール (Samuel R. Hall)	教師	教育書
29	幼児学校マニュアル Infant School Manual	ハウランド (Mrs. Howland)	教師	教育書
30	古典語辞典 Lempriere's Classical Dictionary	記載なし	青年	古典語
31	アダムスのラテン語文法 Adams's Latin Grammar	記載なし	記載なし	ラテン語
32	ウォーカーのラテン語読本 Walker's Latin Reader	S.C.ウォーカー (S.C. Walker)	記載なし	ラテン語
33	はじめてのラテン語 First Lessons in Latin	チャールズ・D・クリー ブランド (Charles D. Cleveland)	記載なし	ラテン語
34	簿記 Book-Keeping	マイケル・ウォルシュ (Michael Walsh)	貿易商、農夫、商人、学校	簿記
35	アメリカ合衆国のすがた A View of the United States	ホセア・ヒルドレス (Rev. Hosea Hildreth)	学校、家庭	アメリカ合衆国 ※各州の自然、特徴 政治行事等
36	アメリカ合衆国史（概説） An Abridged History of the United States of America	記載なし	学校 ※「教科書」(Text Book) として推薦	歴史
37	子どものアメリカの地理の本 The Child's Book of American Geography	記載なし	記載なし	地理
38	子どものアメリカ合衆国史 The Child's History of the United States	記載なし	学校（校種の記載なし） ※初学者向け	歴史
39	ピーター・パーレーの動物の話 Peter Parley's Tales of Animals	ピーター・パーレー (Peter Parley)	記載なし	動物

	タイトル	著者	対象	科目・分野など
40	算術と代数の問題, 公式 Arithmetical and Algebraic Problems and Formula	F.J.グランド (F.J.Grand)	記載なし	算術
41	幾何学の初歩的なきまり 1 An Elementary Treatise on Geometry 1	F.J.グランド (F.J. Grand)	記載なし ※初学者向け	幾何学
42	幾何学の初歩的なきまり 2 An Elementary Treatise on Geometry 2	F.J.グランド (F.J. Grand)	記載なし ※初学者向け	幾何学
43	詩の学習 Studies in Poetry	ジョージ・チーヴァー (George B. Cheever)	女学校	詩
44	ジョンソンの辞書 Johnson's Dictionary	記載なし	学校 (校種の記載なし)	不明
45	子どもの植物学 The Child's Botany	記載なし	記載なし	植物学
46	数学表 Mathematical Tables	記載なし	記載なし	数学
47	ジェスチャーの基礎 Rudiments of Gesture	ウィリアム・ラッセル (William Russell)	記載なし	演説
48	イタリア語の基礎 Rudiments of Italian Language	ピエトロ・バチ (Pietro Bachi)	記載なし	イタリア語
49	子どもたちのための賛美歌 Mrs Barbauld's Hymns for Children	ピエトロ・バチ (Pietro Bachi)	記載なし	音楽
50	学校音楽 Music for Schools	記載なし	小学校・コモンスクール	音楽
51	はじめての芸術と手芸 First Book of the Fine and Useful Arts	マーシャル・ペリー (Marshall Perry)	学校 (校種の記載なし) ライシイアム	芸術・手芸
52	グッドリッチの万国地理 Goodrich's Universal Geography	グッドリッチ (Goodrich)	記載なし	地理
53	グッドリッチの学校地理と地図帳 Goodrich's School Geograhay and Atlas	グッドリッチ (Goodrich)	学校 (校種の記載なし)	地理
54	信仰の証明に関する対話 Conversations on the Evidences of Christianity	J.L.ブレーク (Rev. J. L. Blake)	記載なし	宗教
55	フランス語文法 Wanostrocht's Franch Grammar	記載なし	記載なし	フランス語
56	Surault's Do. For beginners	記載なし	記載なし	不明
57	ヘンズのフランス語読本 Hentz's French Reader	記載なし	記載なし	フランス語
58	ボッシュのフランス語単語 Bossut's French Word	記載なし	記載なし	フランス語
59	フランス語の簡単なレッスン La Bagatelle, or Easy Lessons in French	記載なし	記載なし	フランス語
60	フランスにおけるアメリカ合衆国史 History of the U.S. in French	記載なし	記載なし	歴史

【出典】 “List of Approved School Books,” in: Josiah Holbrook ed., *The Family Lyceum*, Extra, 1833. を参照し, 筆者作成.

このようにリストでは多様な「教科書」が紹介されているが, なかには学校の教授用の教科書 (textbook) としての使用が推奨されている本もある. それは項目36の『アメリカ合衆国史(概説)』 (*An Abridged History of the United States of America*) である. この項目には, 「我々はこの本を注意深く試してみて, 学校で用いる優れた教科書として推薦する」<sup>(18)</sup> という説明が添付されている.

## (2) 学校における使用の対象と場所

リストにはその「教科書」を使用する対象および場所について明記されている箇所もある. それは, コモン・スクール (の生徒), (校種の記載がない) 学校 (の生徒) ライシイアム (の会員), 青年, 家庭, 教師, その他の職業人などである.

特徴的なのは, 学校の生徒の年齢や能力に対応して「教科書」を推薦していることである. 例えば, リストの項目10『英文法の初歩』 (*Elements*

of English Grammar), 項目11『子どものための地理』(Geography of Children) はコモン・スクールの「年少クラス」(younger class) 用であると明記されている。また、項目5『読本シリーズ』(Series of Reading Books) はコモン・スクールで綴り字の学習を終えた生徒や中等教育以上の生徒を対象としている<sup>(19)</sup>。

すでに述べたように、1820年代まで運営されていた学区学校では、一つの教室に多様な年齢・能力の子どもが在籍し、年齢や能力に応じたクラス分けはされていなかった。授業は子どもが家庭から持参する個別の本を暗記する形態であった<sup>(20)</sup>。したがって、このリストにおいて紹介されている「教科書」は、従来、学区学校で展開されていた授業形態を想定せず、生徒の能力や年齢を考慮した授業を想定していると考えられる。北野によれば、1820年代になると植民地時代から行われてきた暗記や暗唱、体罰を用いた強制的な授業に代わる、新しい「効率的で合理的な教室管理や教授方法」が展開された<sup>(21)</sup>。ライシーム運動においても、そうした同時の教授方法の変化の流れを背景に、新たな教授方法とそれに基づく「教科書」の情報を教師に提供していたと考えられる。

### (3) 教師向けの教育書

ブックリストの中には教師を対象とする教育書が3冊含まれている。項目27『学校経営講義』(Lecture on School Keeping)、項目28『女性教師のための講義』(Lectures to Female Teachers)、項目29『幼児学校マニュアル』(Infant School Manual) がそれにあたる<sup>(22)</sup>。項目27、28は1823年にアメリカ初の師範学校を設立し、教員養成につとめたサミュエル・ホール (Samuel Hall, 1795-1877) が1829年に刊行した著作であり、『学校経営講義』の目次は以下の表2の通りである。なお、紙幅の都合上、章名のみ摘記する。

このように『学校経営講義』は全13講から構成されている。コモン・スクールの意義と現状の解説からはじまり、責任感、愛情などの資質、学校管理の方法、コモン・スクール教科全般への知識、新しい教授方法等、教師に求められる資質能力が示されている。記事によれば、ニューヨーク州で

表2. ホール『学校経営講義』の目次

第1講	コモン・スクールの重要性、性質、有用性への無関心—その起源と影響
第2講	コモン・スクールの有用性に対する障害
第3講	教師に必要な資質
第4講	1. 教師の業務の本質を学ぶことの重要性 2. 教師の責任—責任への認識と理解の重要性
第5講	1. 学校への信頼を得ることの重要性 2. 教授者は学校の利益を高めるためにすべての時間を費やさなければならない
第6講	学校の管理 1. 管理のための必要条件 2. 学習者の管理
第7講	学校の管理 つづき
第8講	1. 学校の一般的な経営 2. 学習の管理
第9講	教授方法—実物教授の方法 1. 綴り字 2. 読み方
第10講	教授方法 つづき 1. 算術 2. 地理 3. 英文法 4. 書き方 5. 歴史
第11講	教授方法 つづき
第12講	学習者の注意を喚起する方法
第13講	女性教師のための講義

【出典】Hall Samuel, "Lectures on School-Keeping, Lectures to Female Teachers on School-Keeping," in: L. Cremin ed., *American Education, its Men Ideas and Institutions* (Arno Press & the New York Times, 1969), pp.ix-xi. を参照し、筆者作成。

は立法府の命令により、すべての学区にこの『学校経営講義』が配布された<sup>(23)</sup>。バツおよびクレミンによれば、『学校経営講義』は「合衆国において最初に普及した教師養成のテキスト」<sup>(24)</sup>である。

アメリカ教育史研究者のホーガン (David Hogan) は、ホールの『学校経営講義』を「ニューイングランド・ペダゴジー」(New England Pedagogy) という、この時期の新しい教授方法のなかに位置づけ、当時、この本が非常によく読まれていたとしている<sup>(25)</sup>。北野によれば、「ニューイングランド・ペダゴジー」は、体罰や暗記、競争といった外側からの強制力ではなく、教師への「愛」や「良心」によって子どもが学校規律に自

発的に従い、学習に自律的に取り組むようになることを目指すものである<sup>(26)</sup>。ライシーム運動では、「教科書」の普及を通してこの時期の「ニューイングランド・ペタゴジー」と称される新たな教授方法の情報を提供していた<sup>(27)</sup>。

以上、ホルブルックが刊行した『週刊ファミリー・ライシーム』におけるリストをもとに、どのような「教科書」の普及が目指されていたのかを概観した。それは①コモン・スクールを中心とした学校で使用する教材、②青年や成人の自発的な学習に使用する教材、③教師教育のテキストに分類される。次章では、実際のライシームにおいて「教科書」がどのように整備され、それをどのように使用していたのかをみていく。

#### 4. ライシームにおける「教科書」の実際

地域住民の自発的な学習施設であったライシームにおいて、「教科書」が実際にどのように整備され、使用されていたのかを解明するために、マサチューセッツ州のタウン、コンコード (Concord) のライシームを取り上げる。筆者はすでに別稿でコンコード・ライシームの講演会と討論会の実際を分析しているが<sup>(28)</sup>、「教科書」の読書会については検討していない。

コンコード・ライシームでは、多種多様なテーマで講演会や討論会が行われたが、そのなかにタウンにおける教育のあり方を問うものもあった。例えば、1830年9月29日には、コンコードのグラマースクール教師であるカーター (Carter) という人物が、「知は力なり (Knowledge is power) — 学務委員 (school committee) のモットー」という題目で講演を行っている<sup>(29)</sup>。ここでいう学務委員とは、コンコードのタウンの学務委員であり、1826年法によりタウンの学校の監督と管理の権限を法的に承認されていた。タウン学務委員の主な仕事は教師の採用と学校の経営であった<sup>(30)</sup>。コンコードの学務委員はライシームを利用して、年度当初にタウンの学校経営にかかわる所信を表明していたと推測される。この講演後、コンコード・ライシームでは教育に関わる講演、そして

「教科書」の整備とそれを使用した読書会が展開されていく。

例えば、1830年10月6日には、ホスマー (Hosmer) という人物によって「教育」をテーマにした講演が行われた後、引き続き、「教科書」を用いた読書会が開かれている。読書会の主催者は、ボール (Ball) という人物であり、ウィリアム・ウッドブリッジ (William Woodbridge, 1794-1845) 編集の『教育誌』 (*the Annals of Education*) を読み、意見を交換している<sup>(31)</sup>。

この『教育誌』の定期購入をめぐり、1832年9月19日のコンコード・ライシーム総会において議論がなされている。議事録には、「学芸員の「学務委員や教師はもちろん、子どもの教育に関心を持つすべての住民が『教育誌』を読むべきである。この雑誌には教育に関する議題が多く含まれている」という意見が残されている。そして定期購読のための予算3ドルが計上されている<sup>(32)</sup>。

また、同年11月24日の講演会では、本稿第3章で取り上げたホールの『学校経営講義』がホスマーによって紹介され、ホスマーは同書に対する意見を述べている<sup>(33)</sup>。

ホールの『学校経営講義』はライシーム運動の「教科書」のリストに含まれるが、『教育誌』は含まれていない。しかし、教育に対する意識を高めるといふねらいや、住民の学習の教材として整備されていることから、「教科書」に該当すると判断した。このように、コンコード・ライシームでは、タウンの教育行政を担う学務委員、学校の教師、一般の地域住民の学習の教材として、「教科書」が購入され、講演会において本をもとに教育に関する情報が提供され、読書会を通して意見交換がなされていた。

#### 5. まとめと今後の課題

以上、ライシーム運動における「教科書」の整備と普及に関わる取り組みをみてきた。最後に、それらの取り組みの教師教育上の意義について考察する。

第一に、リストの検討により、「教科書」には



学校の授業で使用される教材のほか、教師の学習のための教材も含まれることが明らかになった。ライシーム運動においては、現職教師の自律的な学習と、教師同士の協同的な学び合いの教材として、「教科書」を整備していた。それは教師個人、教師集団による自発的な資質能力の向上にむけての環境整備の一環であると考えられる。

第二に、リストの検討により、「教科書」には当時の新しい教授方法が反映されているものが紹介されていることが明らかになった。そのことは、単なる図書紹介にとどまらず、本を通して新しい教育内容や教授方法に関する情報を教師に提供することでもあった。「教科書」の整備や普及には、教育内容、方法的側面における教師の成長を促すという目的もあったと考えられる。

第三に、コンコード・ライシームの事例の検討により、「教科書」が定期購入され、学務委員、教師、住民の学習のために整備されていたこと、それをういた講演会、読書会が開催されていたことが解明された。筆者は別稿でライシーム運動において、地域住民が地域の学校および教師への支援の担い手として位置づけられていたことを明らかにした。本稿では、同じ「教科書」を読み合う読書会の開催が確認され、読書を通じた教育への共通理解と意見交流が行われていたことがわかった。

本稿においては、ライシーム運動において「教科書」として紹介されている本のうち、ホールの『学校経営講義』の構成や内容を確認した。今後は、特に新しい教授方法が反映されている「教科書」に焦点を当て、その構成と内容を分析することにより、教育内容や方法的側面に対するライシーム運動の貢献を明らかにしていきたい。

## 註

- (1) 田中によれば、1820年代のアメリカのディストリクトスクール（本稿本文では「学区学校」）で使われていた教材は「学校本」（school book）と呼ばれていた。これらの本は生徒が家庭から個別に持参するものであった。これらは標準化された教科書（textbook）ではなく、多種多様な種類があった。教科書が広がり始めるのは1830年代から40年代であったという（詳しくは、田中智志『人格形成概念の誕生 — 近代アメリカの教育概念史 —』東信堂、2005年、246-247頁、250-253頁を参照。）後に詳しく述べるが、ライシーム運動において1832年に発表された School Book の一覧を見ると、学校で使用する教科書（textbook）のほかに、教師教育向けの教育書、成人学習者や家庭学習用の教材も含まれている。したがって、本稿では schoolbook を「教科書」と表記する。
- (2) 古川明子 a 「ライシーム運動の再評価 — 1830・40年代のコンコード・ライシームにおける『相互教授』の思想と実践を中心に —」日本教育学会『教育学研究』第69巻第3号、2002年、59-68頁。
- (3) Cecil Hayes, “The American Lyceum, its history and contribution to education,” in: Office of Education and United States Department of Interior, ed., *Bulletin*, 12 (Washington: United States Government Printing Office, 1932).
- (4) 古川明子 b 「ライシーム運動におけるコモン・スクール構想 — 共有知識の選択に注目して —」筑波大学教育学会『筑波教育学研究』創刊号、2003年、43-55頁。古川明子 c 「ライシーム運動における『教育委員会』構想 — 1830年代のマサチューセッツ州を中心に —」筑波大学大学院博士課程教育学研究科『教育学研究集録』第27集、2003年、27-36頁。古川明子 d 「ライシーム運動における教授情報の普及とその理念 — 1830年前半のマサチューセッツ州のタウンにおいて —」筑波大学教育学会『筑波教育学研究』第3号、2005年、85-100頁。
- (5) 野々垣明子 「ライシーム運動における教師教育 (1)」皇學館大学教育学部『皇學館大學教育学部研究報告集』第10号、2018年、113-130頁。
- (6) R.F.バッツ, L.A.クレミン（渡部晶, 久保

- 田正三, 木下法也, 池田稔共訳)『アメリカ教育文化史』学芸図書138頁, 316頁.
- (7) 北野秋男「アメリカにおける『教授科学』と『実物教授』の起源に関する研究—19世紀初期の「算術」と「地理」のコモン・スクール教科書を中心として—」教育史学会『日本の教育史学』第46集, 2003年, 221-240頁.
- (8) 田中智志『人格形成概念の誕生—近代アメリカの教育概念史—』東信堂, 2005年, 250-253頁.
- (9) 古川 b 前掲論文, 46頁. 古川 d 前掲論文.
- (10) 古川 a 前掲論文, 60-66頁.
- (11) *American Lyceum, with the proceedings of the convention held in New York, May 4, 1831, to organize the national department of the institution*, Hiram Tupper Printer, 1831, p.6.
- (12) Josiah Holbrook, *American Lyceum, or Society for the Improvement of Schools, and Diffusion of Useful Knowledge* (Boston: T. R.Marvin, 1829), p.14.
- (13) バッツおよびクレメン 前掲書, 316-319頁.
- (14) Josiah Holbrook, op.cit., pp.10-11. 古川 b 前掲論文, 46頁.
- (15) 藤本茂生『アメリカ史のなかの子ども』採流社, 2002年, 126-127頁.
- (16) 古川 b 前掲論文, 46頁. Josiah Holbrook, op.cit., p.11.
- (17) “List of Approved School Books,” in: Josiah Holbrook ed., *The Family Lyceum*, Extra, 1833.
- (18) Ibid.
- (19) Ibid.
- (20) 藤本, 前掲書, 126-127頁.
- (21) 北野秋男『アメリカ公教育思想形成の史的 研究—ボストンにおける公教育普及と教 育統治—』風間書房, 2003年, 196-197頁.
- (22) “List of Approved School Books,” in: Josiah Holbrook ed., *The Family Lyceum*, Extra, 1833
- (23) Ibid.
- (24) バッツおよびクレメン, 前掲書, 263頁.
- (25) David Hogan, “Modes of Discipline; Affective Individualism and Pedagogical Reform in New England, 1820-1850,” in: *American Journal of Education*, vol. 99, (1990), No.1, p.17.
- (26) 北野 前掲書, 240-241頁.
- (27) Ray Angela Gail, “Pupils, Spectators, Citizens: Representation of United States Public Culture in the Nineteenth-Century Lyceum,” *University of Minnesota (PhD.D. Dissertation, 2001)*, pp.135-183.
- (28) 古川 a 前掲論文, 62-63頁. なお, コンコード・ライシーアムの講演会に関する先行研究として, 小野和人『ソローとライシーアム—アメリカ・ルネサンス期の講演文化—』開文社出版, 2000年があるが, 「教科書」については検討されていない.
- (29) Kenneth Cameron, ed., *The Massachusetts Lyceum During the American Renaissance* (Hartford : Transcendental Books 1969), p.120.
- (30) バッツおよびクレメン, 前掲書, 293-294頁. E. P. Cubberley, *Public Education in the United States: A Study and Interpretation of American Educational History* (Cambridge: Houghton Mifflin Company: 1947), pp.221-222.
- (31) Kenneth Cameron, ed., op.cit., p.120.
- (32) Ibid., p.127.
- (33) Ibid., p.121.

## Teacher Education in Lyceum Movement ( II ) : Focusing on the Preparation and Dissemination of “School Books”

Akiko NONOGAKI

### **Abstract**

This paper explores the quality of teacher education in the US in the mid-19th Century from the perspective of the preparation and dissemination of “school books” by the Lyceum Movement. In the 1830s, the creation of a public education system, including the creation of “common schools” for the general public, was carried forward in the United States. Many textbooks were also published for use in schools. Texts from a variety of sources were used in these schools, resulting in a lack of unity with regard to both educational content and method. Against this background, Josiah Holbrook founded the Lyceum Movement, which sought to improve “school books”. These books can be divided into two categories: 1) those used for the self-education and mutual instruction of individuals and 2) those used in schools. The most up-to-date of these books, alongside education journals, were used in the education and training of teachers. In local lyceums, teachers and school committees with responsibility for school administration gathered to read school books in an attempt to raise awareness of the need to improve education in schools. At the same time, many of the “school books” recommended for use in schools by teachers and students were written with the latest teaching and learning methods in mind. Thus, the Lyceum Movement aimed to increase educational resources and improve education in schools through the preparation and dissemination of “school books”.

**Keywords:** teacher education/ Lyceum Movement/ “school books”/ Concord Lyceum/  
educational journal